

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない
 【環境有害性】
 水性環境急性有害性 : 分類できない
 水性環境慢性有害性 : 分類できない

ラベル要素
 絵表示又はシンボル : 該当する絵表示なし
 注意喚起語 : 警告
 危険有害性情報 : 可燃性液体
 : 皮膚刺激
 : 強い眼刺激
 : アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ。
 : 呼吸器への刺激のおそれ。

注意書き **【安全対策】**
 : 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 : ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
 : 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 : 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 : 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
【救急処置】
 : 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸し易い姿勢で休息させること。
 : 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 : 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
 : 皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと
 : 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
 : 皮膚に付着し、皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 : 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 : 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
 : 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
 : 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
【保管】
 : 施錠して保管すること。
【廃棄】
 : 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物

成分名	含有量 (%)	CAS番号	官報公示整理番号	PRTR法
2-シアノアクリル酸ブチル	85-90	6606-65-1	(2)-2789	非該当
ブチルヒドロキシアニソール	0.1-0.2	25013-16-5	(9)-1199	非該当
アクリル樹脂	8-12	9011-14-7	(6)-524	非該当
カーボンブラック	0.05	1333-86-4	(5)-5222	非該当
アセチルクエン酸トリブチル	0.5	77-90-7	(2)-1327	非該当

化学式又は構造式



4. 応急処置

- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。
: 多量の水と石鹼で洗うこと。
: 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
: 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
: 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 予想される急性症状及び遅発性症状
: 【吸入】上気道の刺激、喘息様症状。喘息様症状は遅くなって現れる。
: 【皮膚】刺激、発赤、炎症。
: 【眼】刺激、発赤、痛み。
: 【経口摂取】「吸入」参照。
- 最も重要な兆候及び症状 : 喘息様症状。
- 応急処置をする者の保護 : 救助者は状況に応じて適切な保護具を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項 : 安静と症状の医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 【小火災】粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤
: 【大火災】泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水、火源に直接水をかけない。
- 特有の危険有害性 : 温度条件によっては、爆発の危険性がある。
: 加熱により容器が爆発するおそれがある。
: 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
: 大火災の場合、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
: 周囲の施設に、散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用すること

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
: 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
: 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
: 関係者以外の立入りを禁止する。
: 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
: 風上に留まる。低地から離れる。
: 密閉された場所に入る前に換気する
- 環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。
: 河川等に排出され、環境へ影響を及ぼさないように注意する。

回収、中和	: 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 : 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	: 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	: すべての発火源を速やかに取除く。(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止) : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	: 火気注意。 : ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 : 眼、皮膚との接触を避けること。 : 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。 : 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 : 取扱い後はよく手を洗うこと。 : 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
接触回避	: 「10. 安定性及び反応性」を参照。

【保管】

技術的対策	: 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 : 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 : 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 : 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 : 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
混触危険物質	: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件	: 炎及び熱表面から離して保管すること。 : 酸化剤から離して保管する。 : 冷所、換気の良い場所で保管すること。 : 施錠して保管すること。
容器包装材料	: 消防法で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	: 未設定
許容濃度 (暴露限界値、生物学的暴露指標)	
日本産業衛生学会(2005年版)	: 未設定
ACGIH(2005年版)	: 未設定
設備対策	: 防爆の電気、換気照明機器を使用すること。 : 密閉構造の装置、機器を用い、発生源の密閉化をはかること。 : 全体および局所排気装置を設置し、換気を行うこと。 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	: 適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具	: 適切な眼の保護具を着用すること。 : 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
皮膚及び身体の保護具	: 適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策	: 取扱い後はよく手を洗うこと。 : 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 黒色液体
臭い	: 特有の刺激臭
pH	: 非該当
融点、凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 86 ~ 88°C (5mmHg)
引火点	: 80°C以上
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度 (空気=1)	: データなし
比重 (密度)	: 0.9~1.1
溶解度	: 水に不溶 2)アセトン等に易溶。
オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
臭いのしきい (閾) 値	: データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル=1)	: データなし
燃焼性 (固体、ガス)	: 非該当
粘度	: 60 ~ 100 mPa. s (20°C)

10. 安定性及び反応性

安定性	: 加熱により発火、重合の可能性がある。
危険有害反応可能性	: 皮膚に付着すると瞬間的に接着する。
避けるべき条件	: 高湿度、混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 酸、アルカリ、過酸化物質、酸化剤、還元剤。
危険有害な分解生成物	: 燃焼により、有害なガス（一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、シアン化物など）を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口	データなし
	: 経皮	データなし
	: 吸入(蒸気)	データなし
	: 吸入(ミスト)	データなし
皮膚腐食性、刺激性	: データなし	
眼に対する重篤な損傷、刺激性	: データなし	
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: データなし	
生殖細胞変異原性	: データ不足により分類できない	
発がん性	: データなし	
生殖毒性	: データなし	
特定標的臓器、全身毒性(単回暴露)	: 呼吸器への刺激のおそれ(区分3)	

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : データなし
 水生環境慢性有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する
 : 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

焼却 : アフタバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する

活性汚泥処理 : 低濃度の排水は、活性汚泥処理装置で処理する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

14. 輸送上の注意

【国際規制】

海上規制情報 : 非危険物
 航空規制情報 : 非危険物

【国内規則】

陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。

海上規制情報 : 非危険物

航空規制情報 : 非危険物

特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。
 : 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさない様に運搬すること。
 : 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。輸送前に容器が密閉されているか、又、液やガスの漏れがないかを確認する。
 : 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき有害物
 : (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)該当しない

消防法 : 第4類引火性液体、第3石油類非水溶性液体

16. その他の情報

災害事例 : 該当する災害事例はない。

【記載内容の取り扱い】

記載内容は現時点で記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載事項は通常取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。